

大果で豊産性かつ『栗きんとん』の加工に適するクリ新品種「えな大豊 ^{たいほう} 」	
【要約】「えな大豊」は、早生品種「丹沢」と中生品種「筑波」の端境期（9月中旬）に収穫できる早生品種で、果実の肉質、色がともに優れ、『栗きんとん』の加工に適し、大果で若木期から豊産性である。	
中山間農業研究所 中津川支所	【連絡先】0573-72-2711

【背景・ねらい】

県内産クリでは、主用途である和菓子『栗きんとん』の加工に適し、多収の品種が求められている。これまでに、主要品種である早生「丹沢」と中生「筑波」の端境期に収穫でき、『栗きんとん』への加工適性が高い「えな宝月^{ほうげつ}」を育成した（平成28年3月品種登録）。しかしながら、クリ栽培では、受粉のため異なる品種を混植する必要がある。そこで、『栗きんとん』の加工に適し、豊産性であり、かつ既存品種「えな宝月」と同じ収穫期の品種を育成する。

【成果の内容・特徴】

- 1 平成21年に中生品種「筑波」に早生品種「ぽろたん」を人工交配して得られた実生の中から選抜、令和6年8月に「えな大豊」として品種登録出願し、同年12月5日に出願公表された（出願番号37585号）。
- 2 育成地（中津川市）では、「えな宝月」と同時期の9月中旬に収穫できる早生品種で、「丹沢」と「筑波」の端境期に収穫できる（表1）。
- 3 樹姿は斜上、10年生樹における樹冠占有面積は16.2m²で、樹の姿や生育スピードは「えな宝月」や「丹沢」よりも「筑波」に近い（表1）。
- 4 若木期は、1果重22.0gで他品種に比べて大果であり、不良果が少なく収量性に優れる（表2）。
- 5 成木前期は、1果重25.3gで「えな宝月」より大果で、不良果が少なく収量性に優れる（表3）。
- 6 双子果率は、1.7%で「えな宝月」より少なく、蒸した時の果肉色は淡黄色、肉質はやや粉質で、『栗きんとん』への加工適性は「丹沢」や「筑波」に比べて優れる（表4）。

【成果の活用・留意点】

- 1 本品種の栽培は、当面の間は県内限定とする。
- 2 本品種の導入により、端境期の出荷量減少が少なくなり、安定供給と収穫労力分散が期待できる。
- 3 本品種と既存品種「えな宝月」を互いに受粉樹として植栽することで、除草、病害虫防除ならびに収穫作業を同時期に実施でき、作業能率の向上やドリフト防止が期待できる。

【具体的データ】

表1 生育データ(2019～2023年)

品種	樹姿	樹冠占有面積(m ²)	発芽期 (月/日)	開花盛期(月/日)		収穫期(月/日)	
				雄花	雌花	始期	終期
えな大豊	斜上	16.2	3/26	6/16	6/13	9/13	9/27
えな宝月	開帳	24.1	3/24	6/19	6/17	9/13	9/26
丹沢	直立	10.7	3/25	6/16	6/13	9/4	9/16
筑波	斜上	15.1	3/22	6/17	6/11	9/21	10/6

樹姿: 樹全体の成長方向を示す(垂直方向) 直立>斜上>開帳(水平方向)

樹冠占有面積: 10年生樹における樹幅×樹幅×0.8

表2 若木期(4～6年生)収穫特性

品種	1果重 (g/果)	総収量 (kg/樹)	健全果収量 (kg/樹)	健全果率 (%/果)
えな大豊	22.0	13.1	11.9	82
えな宝月	17.4	10.6	8.1	76
丹沢	20.6	7.8	5.5	70
筑波	18.6	14.0	9.0	65

収量と健全果に関するデータは3カ年の累積値

表3 成木前期(7～9年生)収穫特性

品種	1果重 (g/果)	総収量 (kg/樹)	健全果収量 (kg/樹)	健全果率 (%/果)	不良果率 (%/果)	不良果内訳(%/果)				
						裂果	病害	シワ果	未熟果	虫害
えな大豊	25.3	12.6	10.1	79	21	2.0	7.4	4.4	0.2	6.8
えな宝月	20.4	11.4	8.4	74	26	3.4	11.8	0.0	3.4	7.5
丹沢	23.4	9.7	5.7	61	39	12.0	9.8	4.0	8.7	4.7
筑波	24.9	13.9	8.0	58	42	5.2	8.0	3.8	2.0	23.1

データは3年における単年度平均値

表4 果実特性(2019～2023年)

品種	双子果率 (%/果)	蒸し栗品質				比重
		果肉色	甘味	肉質	香り	
えな大豊	1.7	淡黄色	やや多	やや粉	中	1.067
えな宝月	13.1	黄色	多	やや粉	やや多	1.068
丹沢	3.1	やや淡黄色	やや多	中	中	1.049
筑波	2.4	淡黄色	やや多	中	中	1.049

果肉色: 黄色>淡黄色>やや淡黄色>乳白色

甘味: 多>やや多>中>少

肉質: 粉質>やや粉>中間>粘質

香り: 多>やや多>中>少



図1 樹姿(12年生複製樹)



図2 毬果



図3 子実



図4 栗きんとん

研究課題名: 中山間地域特産作物の新品種育成及び導入に関する研究(平成21～23年度)

中山間特産果樹モモ、リンゴ、クリ等の新品種育成と栽培技術の開発(平成24～28年度)

クリ新品種育成及び有望品種選定と「えな宝来」「えな宝月」「ぼろたん」の安定生産技術開発(平成29～令和3年度)

クリ産地維持・拡大に向けた新品種育成および安定生産技術の開発(令和4年度～)

研究担当者: 水野文敬、メルトン里奈、宮本善秋、荒河匠、磯村秀昭、神尾真司、塩谷哲也